明治廿六年八月

〔明治廿五年四月七日內務省許可〕

大日本蠶絲會報

第拾四號

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報第拾四號目次

●論說

◎產絲貿易對外策に就きて　大日本蠶絲會贊成會員　高橋信貞

◎桑樹委縮病試驗報告　大日本蠶絲會理學士贊成會員農學士　堀正太郎

●寄書

◎海外蠶況彙報　大日本蠶絲會贊成會員　橋本重兵衛

●統計

◎世界各國蠶生絲產出高概算◎六月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計◎六月中絹布類輸出數量及元價統計◎七月中橫濱生絲手合高同最高價格及外國為替相場表

●問答

◎蠶種桑樹其他の件に關する質問非に答

●外報

◎里昂蠶絲改所景況◎本邦の粗製生絲及羽二重の件◎伊國絹物商況及養蠶景況

●雜報

◎內商外人の貸金を仰ぐ◎某師村民の惑を解く◎蠶絲貿易の穢見◎坐繰製絲業に及ぶ◎新井氏辭職の理由◎蠶業上の奬勵手段◎養法の改良と販路の擴張◎高等養蠶傳習所の通信◎蠶種製造所の新設◎蠶業傳習生の修得證授與◎今井保一郎氏◎出張と派遣◎答問書◎大日本蠶絲會員の加入

◎大日本蠶絲會役員

○技藝委員

理學士　伊知地德之助
農學士　今西直次郎
農學士　伊藤小左衛門
農學士　星野長太郎
農學士　堀正太郎
農學士　押川則吉
農學士　八田建也
農學士　木多岩次郎
農學士　小野孫三郎
農學士　管野平右衛門
農學士　橫川大林雄也
農學士　高原孫信貞
農學士　田島弁助太郎
農學士　田中延次郎
農學士　田島節三郎
農學士　小野平右衛門
農學士　高橋時敬
農學士　高井節三郎
農學士　藤永善右衛門
農學士　佐々木忠二郎
農學博士　澤野淳
農藝化學士　白井光太郎
理學士　下田伊左衛門
理學士　平賀義美

○評議員

農學士　星野晃太郎
農學士　岡野知莊
農學士　沼平吉
農學士　柿沼喜三
農學士　岡野練木
理學士　管野平右衛門
理學士　高橋信貞
理學士　松永右作
理學士　佐々木忠二郎
理學士　佐藤善右衛門
理學士　佐藤國太郎
理學士　下田伊左衛門
物法士　川崎三郎

○幹事長

芝水村　岡宗九藏　殺

○幹事

高橋信貞
小畑岩次郎
松永伍作

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報第拾四號

●論說

◎蠶絲貿易對外策に就きて

大日本蠶絲會贊成會員　高橋信貞

佛國政府が蠶業奬勵法を實施せしより世界の蠶絲國は皆競ふて之が對策に意を傾けたり今其二三を擧ぐれば西班牙の蠶繭輸出稅賦課案清國の蠶絲改良法案北米合衆國の養蠶事業奬勵法案伊太利國の輸出稅廢止案議決の如き皆是れ偏に自國の蠶業を保護して以て平和の戰爭に備へ而して自國の安寧幸福を得むと欲するに出でたり本邦亦之に對するの策なかるべからず是に於てか朝野の耳目は大に之が對策の講究に傾き實業者と政治家とを問はず銳意事に斯に從ひしは第三議會の頃なりき然るに其主要の論點二派に分れ一は輸出稅廢止を主張し一は絲質改良の先きなることを唱へ其極遂に反目攘臂互に相攻擊せんとするに至れり是れ固より勢ひの然らしむる所と雖も其蠶絲貿易擴張上に及ぼす所の効力は果して如何ぞや

抑も輸出稅廢止の論たる三四年來經濟社會の一問題となりしものにて突然起りたるにあらず絲質改良

の論亦然り特に今日に始まりたるにはあらざるなり元來輸出稅は決して永遠に存續すべきものにあらず早晩必ず廢棄せざるべからざるものなれども乙者が甲者の劈頭第一廢止論に左袒せざりし所以は意ふに前途大に望を屬すべき所の海關課稅の事あるを以て他日稅權回復を得るの秋に迨むで徐々に之を處理するも決して遲きにあらずと信じたるがゆゑなりされど今や態勢一變此稅の廢止も亦已むを得ざるの氣運に向へるものゝ如し

然れども本邦蠶絲貿易の對外策としては獨り此稅の廢止のみにては佛國の保護奬勵法に抗するに足らず如何となれば今回佛國が蠶絲に向つて保護する所の金額は我百斤に改算するときは百有餘圓なり然るに之に對して二十餘圓の稅を蠶くのみにては其効或は鮮少ならむ語を換へて之を論ずれば佛國は生絲百斤に對し一百餘圓の保護あるがために夫だけ低價に賣出すものと假定せむに我は是れと競爭するに當り輸出稅免除の爲め僅々二十餘圓を遞減し而して衡を市場に爭はむとするに同じければなり

若夫れ伊絲との競爭上に於ける此輸出稅免除の効力は佛絲と同日に論ずべきものにあらざるが如し如何となれば伊國の輸出稅免除は之を改算すれば我生絲百斤に對しては僅に五圓許に過ぎずと雖も今回佛國が海關稅則を改正し是迄伊絲に向つて課せし所の稅一基につき一法即ち我百斤に改算し十五圓許を廢止したれば伊絲の佛國に入るや其價値二十圓を下降せしむるも伊國の生産者に於ては毫も苦痛を感ぜざるべければ夫れだけ低價に佛國市場に提供するや論を俟たず故に本邦は此輸出稅を免除して以て佛國里昂市場に於ける伊絲と競爭せしむるの資たらしめんか其効たる少小にあらざるべし加之伊絲の北米合衆國に入るものは佛國に入ると異なりて全く自國の輸出稅五圓許を減じ得るに過ぎざれば我日本帝國の生絲が二十餘圓を減じて米國に入るを得ば價格の競爭上に於ける援助の効決して鮮少ならざるを信ずるなり

事實既に斯の如し然るに均しく本邦の重要物産たる蠶絲の發達を企圖し貿易上彼我對等の權利を占得して以て國家の福祉を增進せんことを計畫する甲乙論者の所見一致せずして互に城郭を築き壘を深くし壘を高くし守備を堅固にして雌雄を決せむとし鷸蚌の利益他の漁者に占收せらるゝ如き不幸を見ることあらば悔ゆるも其詮なかるべし入あり現況を目して分けのぼる麓の道の易はることのみを論じて同じ高嶺の月を看むことに注意の眉かざるの致すものと爲すも恐らく之を辨解するの辭なからむ

予輩の見る所を以てすれば本邦蠶絲の對外策之を分てば二となるべし曰く品質の競爭曰く價格の競爭是なり共に遂行すべきものとす然れども品質の競爭は成し易からずして價格の競爭は成し易し抑も本邦生絲の伊、佛生絲に一籌を輸す所以のものは價格の競爭にあらずして實に品質の競爭にあるなり而して價格の競爭に於て我生絲が常に其後へに攙若たるものは唯一清國あるのみ支那は蠶絲の古國にして而も其産額世界列國に冠たり加之資本も饒多なるがために價格の競爭に於ては日、伊、佛の三國共に其歩を讓るに至る然れども品質の競爭に至ては伊、佛常に先鞭を着け日、清二國の企て及ぶ所にあ

らざるなり然り而して本邦器械製上等生絲は伊、佛の上等生絲と駢馳すべく器械の中等若くは坐繰の上等なるものは伊、佛の中等と並行するを得べく器械坐繰の中等以下に位するもの支那生絲と頡頏するを常とするもの、如し是に由て之を觀れば本邦の產絲は絲質決して伊、佛の下にあらず唯其精良なるものは數量僅少にして粗劣なるもの十中の七八を占むるがため常に伊、佛の下風に立つを免れざるなり此を今日の現況なりとす

然らば則ち目下の急務は須らく品質の改良と價格の低廉とを同時に遂行すべく其間に先後緩急あることなし蓋し品質改良せずむは伊、佛二國の精鋭なる勁敵に當るべからず價格低廉ならざれは支那の無限なる大軍に抗すること能はざるなり甲の論者が喋々する如く輸出稅を廢し絲價を降すを以て本邦蠶絲貿易唯一の對外策と爲すが如きは未以て盡さゝる所あり如何となれば蠶絲の販路を擴張するため輸出稅を廢して以て其價値を降すべしと言ふは可は則ち可にして輸出は增加し得るの理なれども其價値の降りしだけは外國消費者の利益にして內地製絲家の利益ならざるなり否利益ならざるにはあらざるも其利益は製造のために得る所の利益にあらずして販路の擴張したるために加はる所の利益なれば是れ全く消極的の利益なるのみ故に此一偏に拘泥して品質の改良を忽諸に付し去るが如きは策の得たるものと謂ふべからざるなり又乙の論者が絲質改良の急務を喋々しつゝも國營の都合とか稅源に乏しきとかを口實となし輸出稅廢止の事に就ては之を贊成しながら時尙ほ早し機未熟せずとなして合同一致を欠くが如きも是亦敬服する能はず要するに所謂分けのぼる麓の道の異れるのみ高嶺の月を眺むるに至りては一なるべし夫の地價修正地租輕減と云ふが如き皆財源のために議論もあるべけれども別問題は姑く措き蠶絲貿易對外策として輸出稅百七十萬圓を廢止するも尙ほ且つ六百萬圓の剩餘あれば絲質改良の策豈行はれざるの理あらむや法律の改正民力の休養は內治の整理のみ一日を緩ふするも猶可なり貿易の對外策に至りては平和の戰爭にして國家の命脈に關係を有す故に暫間霎時も之を忽にすべからざるなり

◎桑樹萎縮病試驗報告

大日本蠶絲會
賛成會員　理學士　農學士　堀　正太郎

編者曰く本編は堀君が愛知縣桑樹萎縮病試驗委員として調査したる所の成蹟を寄稿されたるものにして最も有要の報告なれば特に之を本欄內に揭げぬ

愛知縣桑樹萎縮病試驗は實に明治二十六年四月十八日を以て着手し五月六日に至る十有九日の日子を費し試驗項目四十有一種桑樹四百二十株に實施せり此種の試驗は今日に至るまで未だ秩序的に且つ學理的に實施せるもの各府縣を通じて一もあるなし只農商務省に於て桑樹萎縮病調査委員の手を以て東京西ヶ原試驗場に設置したるものあるのみ然れども之を本縣設置のものに比すれば其規模三分の一に及ばず是を以て本縣は永く他府縣に率先して此貴重なる試驗に着目し之か實行を企てたるの名譽を擔ふ可く隨て試驗者自らも此光榮の餘澤に潤ふことを得るは深く欣喜する所なり

試驗の方針

桑樹萎縮病の病原に關しては數年來諸說紛雜一定せざるを以て農商務省は昨明治二十五年十一月右調査委員を置き病原探究に務めたり之を以て委員田中延二郎幷に仝堀正太郎は仝年十二月愛知縣下に於て之が調査をなし其結果は舊來の諸說を壓倒して新病原の一說即ち桑樹萎縮病は一種壺菌科の菌類桑樹の幼根に寄生し爲に根部の腐敗を起し桑樹の生理的作用を障害するを以て發する所のものとする寄生害菌說を唱道せり此新說や一時一派の論者は激烈なる反對の論議を以て駁擊し來り爲に相互の論難辨駁に無用の論辨を費やせしことあり然るに頃日に至りて反駁の論頓に止み反て寄生害菌說に公然たる賛同者を得るに至れり農商務省の桑樹萎縮病調査委員は即ち此寄生菌說を信ずるものにして此說を基礎として以て豫防驅除の試驗を東京西ヶ原試驗場に於て實行せり故を以て今日愛知縣に於ける桑病試驗も亦素より兩委員が首唱したる所の寄生害菌說を以て根據とし其寄生害菌の性質所在等を考察して試驗の大方針を定む然りと雖も此新病原說は首唱以來日尙ほ淺く爲に病患の蔓延、傳染、外界の關係即ち桑病と肥料、地質、水分、天候等に如何なる關係を有するやの精確なる調査に至りては未だ十分ならず故を以て今日實施せんと欲する所の試驗は區域洵に廣大にして只に除害の試驗に止まらず或は病毒と外界の關係或は病勢蔓延の遲速等汎く萎縮病に關する諸種の試驗をなさゝるべからず而して其試驗の多くは試驗者自らの考案に出ずと雖も經驗ある桑樹栽培者自家の實驗說の如きは之を鑑査取捨して以て參考の爲同時に試驗を實施せり

試驗の考案

第一　傳染試驗

此試驗に依りて萎縮病は眞個に隣接の健全桑に其病毒を傳染するや又有毒根は能く其病毒を健根に感染せしむるの力あるや而して又楮の如き桑樹の近親植物は果して能く桑樹萎縮病毒に感染するや否を確めんとするにあり故に此試驗をして若し確實なる結果を得せしめば桑園内に於て一二の桑樹萎縮病を發顯したるに際し其處置に頗る利する所あらん而して又病毒蔓延を豫防するに當りて便なるものあらん從來桑園内に於て萎縮病の發するや多くは之を採掘して後直に新桑苗を移植す然るに早くは翌年を待たずして同病を發顯すること屢々なり是れ病桑株採掘の際害菌寄生の細根地中に殘留して全く無毒の地にあらざるを以て新に移植したる桑苗も終に病毒に斃るゝものならん是を以て病桑採掘の方法並に採掘跡の消毒法等は頗る考試を要す可きものなり

桑樹萎縮病は桑樹の特有にして他に之を見ざるか或は又楮樹の如き近親同科植物も亦同病患に襲はるゝものなるやを確認するは是れ亦病原地探究の爲大に必要とする所なり今桑樹を接木し得べく又栽培不便なき桑樹の近親植物にして桑樹萎縮病毒に不感染なるものありとせよ此樹を取て砧木とし桑樹を接木せば萎縮病を避くるに最も便利なるものならん若し又近親植物にして萎縮病に感染するものとせ

ば今日流行する所の桑樹の病原地を探究するに多少の便益を得ると必然なり桑樹萎縮病は之を劇烈なる桑樹の虎列病と見做して大過なかる可し故に之が萬般の試驗も亦其趣を同くす

從來各地の實況を觀察するに實生苗木は最も劇烈に病患に襲はるゝの傾向あり果して然りとせば今日實生苗木を砧木となし桑枝を接木したるものを栽培する習慣は桑病流行地方に於ては最も注意を要すべきものにして其病毒感染の緩急遲速を確むること必要なり今左に以上の理由に基き實施したる所の試驗の項目を掲ぐ

一病桑と健全桑とを接植す

萎縮病桑と健全なる一年苗とを相抱合して植ゑ是に依て病桑の根部に寄生する所の害菌は能く健全桑の根部に傳染して之を發病せしむるや否を驗するにあり

二病桑と實生桑苗とを接植す

萎縮病桑と實生桑苗とを相抱合して植ゑ前試驗と比較して以て孰れか發病に緩急遲速の差異あるやを知るにあり

三病桑と楮樹とを接植す

萎縮病桑と楮樹とを相抱合して植ゑ楮樹は萎縮病桑の根部にある所の病毒に感染するや否を驗するにあり此試驗は嘗て某桑園に萎縮病を發生し終に隣接の野生楮樹にも同樣の病患を發したるとありとの事實を傳聞せり故を以て一層之が眞否を確定せんと欲するにあり

四病毒地に健全桑苗を移植す

從來病桑を採掘して後新桑苗を移植し再び同病に襲はるゝもの職として殘留せる病根土中に埋藏して是れより發病するものならん故に今若し萎縮病桑の幼根即ち病桑に感染したるものを夥多採集し之を土中に埋めて床盤となし其上に健全桑苗を移植するときは尙ほ普通桑園に見る所の顯象と大差なかる可し

五病毒地に實生苗を移植す

前試驗と同理に基き實生苗を以て驗するにあり

第二　消毒試驗

此試驗は即ち萎縮病桑を採掘し諸種の試藥を用ひて根部を洗淨し是に寄生する所の害菌を滅殺して後之を無病毒の地に移植せば果して其効驗あるや否を驗するにあり抑も藥劑を用ひて寄生害菌の滅殺を計ること一大難事たり寄生も植物なり寄生害菌も均しく是れ植物なり故に寄主即ち桑樹の生理に障害を與へずして是に寄生する所の害菌のみを滅殺する所の藥劑の種類分量等を發見すること即ち此試驗の主眼とする所なり故を以て此種の試驗は殺菌の効力ある藥品の種類、分量、幷に之に曝露する所の時間に於て可成的數多の試驗を要す

當今桑樹萎縮病は多くは桑樹移植後三四年にして發病するを以て收葉の好期に達して斃るゝものなり故を以て一たび病患に襲はるゝや之を採掘して燃料に供せんよりは之を消毒し全治の上栽培せば新桑苗を移植し三四年を俟て初めて十分の收穫を見るものに比すれば其利益や大なり是れ此試驗の必要なる所以の一なり又今一種の藥劑を用ゐて一定時間に浸漬したれば能く病毒を除去し得たりとせば桑園内の病桑を治療するに當りて標準となすを得是れ必要の第二とす

試藥の種類、分量、幷に浸漬時間等に就ては尚ほ數多の試驗を要す可きなり然れども試驗費に制限あり隨て試驗地の狹隘なるを以て十分の實施をなし能はず次年を俟て補充をなさんと欲す

今左に試驗の項目を掲ぐ

一第一石灰液

水一斗に石灰五合の溶液中に病桑の根部を浸漬すると三十分間にして直に之を無毒の地に移植す

一第二石灰液

水一斗に石灰一升の溶液中に病桑の根部を浸漬すると三十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第三石灰液

水一斗に石灰液一升五合の溶液中に病桑の根部を浸漬すると三十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第一木灰液

水一斗に木灰一升の溶液中に病桑の根部を浸漬すると三十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第二木灰液

水一斗に木灰二升の溶液中に病桑の根部を浸漬すると三十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第三木灰液

水一斗に木灰三升の溶液中に病桑の根部を浸漬すると三十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一生小便第一法

生小便中に病桑の根部を浸漬すると三十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一生小便第二法

生小便中に病桑の根部を浸漬すると一時間にして直に之を無毒地に移植す

一第一昇汞液

水一斗に昇汞三匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すると二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第二昇汞液

水一斗に昇汞四匁五分の溶液中に病桑の根部を浸漬すると二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

第三昇汞液

水一斗に昇汞五匁五分の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第一硫酸鐵液

水一斗に硫酸鐵百五十匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第二硫酸鐵液

水一斗に硫酸鐵二百匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第三硫酸鐵液

水一斗に硫酸鐵二百五十匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

第一硫酸銅液

水一斗に硫酸銅百五十匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第二硫酸銅液

水一斗に硫酸銅二百匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

一第三硫酸銅液

水一斗に硫酸銅二百五十匁の溶液中に病桑の根部を浸漬すること二十分時間にして直に之を無毒地に移植す

第三　治療試驗

此試驗は即ち桑園内に於て被害桑樹を採掘せずして其儘之を治療せんと欲する所の試驗にして病桑株の周圍三尺以内の土を掘り去ること幼根の露出するを以て度となし次に揭ぐる所の試藥一定量を撒布又は灌漑せり其石灰又は木灰の如きは撒布の後僅小の土を其上に撒布せり此試驗は即ち病桑根が施用せる所の試藥を吸收し又は之に感觸するに依て寄生害菌の滅殺を計らんとするにあり然れども此種の治療法は前試驗消毒法に比較するに好し病桑を全治回復せしむるの良結果を得たりとするも試驗藥の種類如何に依ては大に劣る所あり何となれば病毒滅殺の力を有する試藥は多くは植物生理上に有毒なり故を以て此種の試驗藥を以て病桑を一時救治するも却て地味を害すること思からず爲に後來桑樹生育上に影響すると頗る大なり故を以て此種の試驗は可成的地味を害せず從て桑樹の生育に關係なく害菌

を滅殺するの眞法眞藥を發見せざる可からず這回施用したる所の試驗藥の二三は稍此點に於て萬全のものにあらず今左に試驗藥の種類量數を揭ぐ

一石灰　二升、二升五合、三升を各病桑樹十二株宛に施す

一木灰　三升、四升、五升を各病桑十二株宛に施す

一生小便

一株に凡そ三升を注き十五日を隔てゝ注ぐと又全量都合三回を終る此試驗は某桑樹栽培家の實驗說を採用して試驗するものなり

一第一昇汞液

水一斗に昇汞三匁の溶液を製し一株に凡そ三升の量を注ぐ

一第二昇汞液

水一斗に昇汞四匁五分の溶液を製し一株に凡そ三升の量を注ぐ

一第三升汞液

水一斗に昇汞五匁五分の溶液を一株に凡そ三升の量を注ぐ

一第一硫酸鐵液

水一斗に硫酸鐵百五十匁の溶液を一株に凡そ三升の量を注ぐ

一第二硫酸鐵液

水一斗に硫酸鐵二百匁の溶液を一株に凡そ三升を注ぐ

一第三硫酸鐵液

水一斗に硫酸鐵二百五十匁の溶液を一株に凡そ三升を注ぐ

一第一硫酸銅液

水一斗に硫酸銅七十五匁の溶液を一株に凡そ三升を注ぐ

一第二硫酸銅液

水一斗に硫酸銅百匁の溶液を一株に凡そ三升を注ぐ

一第三硫酸銅液

水一斗に硫酸銅百二十匁の溶液を一株に凡そ三升を注ぐ

一過燐酸石灰

一株に凡そ一合の量に撒布す此試驗は某桑樹栽培家の實檢說に基くものなり

第四　接木試驗

此試驗に於ては諸種の目的を有す其項目左の如し

一病桑の根に健全桑枝を接木す

病桑根は害菌の寄生する處なり故に之に健全無病の桑枝の接木するも依然として發芽後直に萎縮するに相違なかるべし是れ病原の研究に必要なる試驗とす

一病桑枝を健全桑の臺木に接ぐ

前試驗と全理に基くものにして健全無病の砧木に病桑枝を接木するも毫も萎縮することなかるべし何となれば病原は根部にありて枝莖萎縮の部分にあらざるを證するものにして以上は寄生害菌說の證憑に供する所の試驗とす

一桑枝を楮の臺木に接ぐ

此試驗は桑樹をして萎縮病の患害を免かれしめんことを目的とするものにして傳染試驗に於て楮は桑樹に感染するや否を確むることを得而して若し楮樹にして萎縮病毒に不感染なりとの結果を得而して接木試驗に於て桑樹は能く楮臺に接木し得且栽培上不都合なしとせば楮臺に桑枝を接木するは實に萎縮病菌の害を避くるの最大良策なりと信ず

以上の試驗の外他に桑樹の近親植物に於ける接木試驗をなさんとせり然れども材料の整備せざるを以て之を次年に回したり

試驗の方法並に試驗園

治療試驗は即ち萎縮病桑を採擷せず栽培の儘之に試藥を施して回復を計らんとするの試驗なるが故に愛知縣農事試驗場附屬の桑園を以て之に充て園內の病桑を撰擇して實施せり消毒試驗傳染試驗幷に接木試驗は皆無毒の地に於てせざる可からず故を以て農事試驗場附屬の桑園の如き病毒彌滿するの地にありては消毒の試驗は終に其効驗なかるべく接木試驗に供したるものも終に病毒の爲めに斃るゝに至るの恐あるを以て農事試驗場附屬地なる名古屋市內白壁町の印度茶園の一部を以て之に充て木製の框を以て三尺四方深さ三尺五寸の地を區劃し之に試驗桑樹一株宛を植ゑたり左に試驗の種類、實施月日、株數等の表を揭ぐ

傳染試驗項目

		實施年月	株數
病桑と健全桑とを接植したるもの	記事	二十六年五月四日	十本
病桑と實生苗とを接植したるもの	框植	仝上	仝上
病桑と楮とを接植したるもの	仝上	仝上	仝上
病毒地に健全桑苗を移植したるもの	仝上	仝上	仝上
病毒地に實生桑苗を移植したるもの	仝上	五月五日	仝上

消毒試驗項目

		實施年月	株數
第一石灰液	記事	二十六年五月四日	十本
第二石灰液	框植		

第三石灰液	框植	二十六年五月四日	十本
第一木灰液	仝上	五月二日	仝上
第二木灰液	仝上	仝上	仝上
第三木灰液	仝上	仝上	仝上
生小便に三十分間浸し	仝上	五月四日	仝上
生小便に一時間浸し	仝上	仝上	仝上
第一昇汞液	仝上	五月五日	仝上
第二昇汞液	仝上	仝上	仝上
第三昇汞液	仝上	仝上	仝上
第一硫酸鐵液	仝上	五月六日	仝上
第二硫酸鐵液	仝上	仝上	六本
第三硫酸鐵液	仝上	仝上	仝上
第一硫酸銅液	仝上	五月五日	五本
第二硫酸銅液	仝上	仝上	六本
第三硫酸銅液	仝上	五月六日	仝上

治療試驗項目

石灰二升を撒布す	栽培の儘	四月二十五日	十二本
石灰二升五合を撒布す	仝上	仝上	仝上
石灰三升を撒布す	仝上	仝上	仝上
木灰三升を撒布す	仝上	仝上	仝上
木灰四升を撒布す	仝上	仝上	仝上
木灰五升を撒布す	仝上	四月二十六日	仝上
病桑の幼根を剪截して植えたるもの	框植	五月六日	五本
生小便凡そ三升を十五日隔に凡そ三回撒す	栽培の儘	四月二十六日	十二本
第一硫酸銅液	仝上	五月二十二日	仝上
第二硫酸銅液	仝上	仝上	仝上
第三硫酸銅液	仝上	仝上	仝上
第一昇汞液	仝上	五月十五日	仝上
第二昇汞液	仝上	仝上	仝上
第三昇汞液	仝上	仝上	仝上

第一硫酸鐵液　栽培の儘　五月十五日　十二本
第二硫酸鐵液　仝　上　仝　上　仝　上
第三硫酸鐵液　仝　上　仝　上　仝　上
過燐酸肥料　仝　上　五月二十五日　仝　上

治療試驗は愛知縣農事試驗場附屬の桑園中の萎縮病桑にして其病狀一樣なるものを撰んで一株の周圍凡そ三尺四方の土を掘り去り幼根の露出するを以て度とし前記の試藥を施したり其石灰木灰の如きは平等均一に撒布し後少許の土を以て之を覆ふ硫酸鐵、昇汞の如きは皆之を溶液となして一株に凡そ三升の割合を以て病桑樹の周圍三尺以内に平等に灌注せり

傳染並に消毒試驗に用ひたる所の病桑は多くは皆數年を經過せる老樹にして根部非常に肥大延長せるが故に之を三尺立方尺の地に移植し雖きを以て根部の多分は適宜に之を剪裁除去せり

傳染試驗に病毒地とあるは健全桑移植の際に地中に病桑の幼根即ち病毒のあるものを埋めて有毒地となしたるを謂ふ而して其病根は試驗實施の前日に於て之を採集し乾燥を防ぐ爲に之を桶中に貯へ水を注て濕潤ならしめ一株に付き一團許りを埋めたり

消毒試驗に用ひたる試藥は皆之を溶液となし水壺に盛り病桑根部全躰を浸漬せり

傳染試驗に用ひたる所の楮並に健全桑苗は名古屋市の植木商永井清九郎より購求したるものにして病毒の有無は明瞭に判定し難しと雖も皆く無病のものと見做して之を使用に供せり

接木試驗用の材料も亦植木商永井清九郎に委囑し調達を俟て之を試驗園に移植するとせり

試驗結果の豫想

這般の試驗は試驗者自からが希望の目的にあらざる結果を生ぜんと今日に豫期して止まざるなり何となれば試驗用の桑樹は盡く皆發芽後數旬を經過し大に移植の時季を遲れ而して試驗用の桑樹は大半老株にして之を移植するには勢ひ根部の大半を剪除せざる可からず是れ桑樹の生育に一大障害を與へたるものなり加ふるに消毒試驗は皆藥劑の溶液中に一定時間根部を浸漬して栽植したるものにして其消毒藥は種類分量幷に浸漬時間に一定の標準なきを以て試驗者は從來殺菌に用たる所の諸種の試藥並に其量を酌酌して採用せり故を以て或は劇烈に過ぎ爲に殺菌と仝時に衰弱せる所の桑樹の枯死を招ぐに至らんとを恐る且つや治療試驗の如きも稍時季の遲るゝを以て其結果も亦遲延を免かれざる可し幸に試驗者は農商務省の桑樹萎縮病試驗園に於て仝樣の試驗をなしたるを以て彼是對照其結果を比較せば互に得る所あらん初度の試驗は恰も暗夜物を探るに異ならずして萬一を僥倖するに過ぎす故に年を逐ふて始めて其功を奏す可きなり

寄書

◎海外蠶況彙報（第六回）

横濱　大日本蠶業會　發成會員　橋本重兵衛

佛國　數日來降雨にて温度頓に冷却し爲めに蠶兒の進行に聊か遲滯あるものゝ如しと雖是れ反て生絲の富澤と蠶繭の收得上に益利するとになるべし

地方は諸處に暴風雨ありたれども蠶室は甚だ順當に進歩をなせり、セヴエンヌ、ヴオクリユズ及びドローム州等は孰れも四眠を終りたれば來週に至らば澤山の初繭の取引を見るならん、センチポリート、ガンヂー、センタムブロア、サロン、ピエルラットに於ては既に見本として精良の新繭を出せしが至て少數なれど之が賣買をなして相場の標準を立てたり

里昂蠶絲商組合最近の牒書を以て佛國に於て掃卸したる蠶卵に就て精確なる數量を報告せり又通告せる村數は四百八十九にして則ち左の如しと云ふ

縣名	豫算村數	通告村數	掃卸數（オンス）	
			千八百九十二年	千八百九十三年
ガール	一四七	一二二	三二、三六八	三一、九四六
アルデーシエ	一一一	九六	三一、一六四	三二、六〇六
トローム	一一〇	七四	一五、七六〇	一六、六七九
ヴオクリユス	六七	五四	一七、四一八	一六、三六一
ブーシユ、デ、ローヌ	三〇	二五	四、五二二	四、五七四
ヴアル	四八	四一	五、一四三	五、四五一
イゼール	六〇	五一	五、五六六	六、〇四七
エロール	三〇	二七	二、二五一	二、四〇四
合計	六〇〇	四八九	一一四、一九二	一一六、〇六八

由是觀之本年の掃立は總に百分の一、六四の增加に過ぎざると明かなり是れ繭の直段の高見込みと產額に應じて養蠶家に支給する所の保護金とに着目して收穫の增加せんとを豫察したれども家養蠶は掃立の增加するが爲め從て桑葉は夫よりも一層の好直を保つべきとと思料し桑葉の賣買をなすの得策なるを信じたるものから爰に培桑の數を殖すとに力を用ひたるより遂に斯る意表の結果を呈したるものなり然るに桑葉は暖氣の爲め其發生を早け大に繁成したれば今日に至り其直段は反對に格外の低落を招くとはなれり

伊太利　上部ピエモンヌ及びカラブルは青種に少しく違作ありし樣なれど桑の饒かなるが爲め順當に掃立をなせり、ピエモンヌ及びチロールの山手は二眠にして、トスカーヌの平原は本月末に新繭を見るべし、併しロムバルヂー及びヴエネチーの桑園のある所の蠶室は一般に三眠中或は三眠を了れり

西班牙　ヴアランスの市場に繭の出荷多く沈靜に傾き直段は一基に付五法甘サンチームより三十サンチームに保ち合へり

地中海東方諸國　天候の晴好に復したるを以て桑の發生を助け又今後に望を懸けて大に掃立を勵めり而してブルーツス平原の蠶兒は初眠に就きたる旨五月廿日附の通信に見えたり

上海　同地よりの電報に依れば收穫は多くも前年と同一なりと云ふ

日本　同國の一問題たるべき霜害に就きて其後何等の報知にも接せざれば其事は敢て配慮するに足らざるべしと思はる

（第七回）

佛國　産出の豐なる地方は何れも全く收繭を了れり而して天氣の乾燥なりしかば買人に取て大に都合宜しセヴェンヌ及びプロヴァンスに於て賣入は順次開市毎に昂進すべしと氣構へり、此氣込をして伊太利に傳ふるに至らば必ず佛國の工業（蠶絹業）に影響するもの少からざるべし

買人は廿五參方上進の見込を立つれど伊太利にては之と反對なるものゝ如く且つ未だ相場の點に考を置かず然りと雖前年最終の直段よりは二十五參乃至四十參方寧ろ低價なるべしと唱へりと云ふ

繭は左の如く順次賣買ありたり

アヴ井ギヨン　五月廿七日四法八十參より五法十參、廿九日四法九十參より五法廿參、卅日五法十參より五法廿五參、廿一日五法廿參より五法卅參、六月一日五法卅參より五法五十參

カヴァイヨン　五月廿八日四法七十五參より四法八十參、卅日五法十參より五法廿五參、卅一日五法廿五參より五法卅參、六月一日五法卅五參より五法四十參

イゼール　六月一日五法廿五參より五法卅參

アルデーシユ　に於ては五法なりしがチーブナ、ショメラック、ツールノン、プール、セン、ダンデオルの諸市の騰貴を極めり（五法四十參より五十參）

セヴェンヌ　（五月廿九日より六月一日までの相場）五法五十參より六十參或は五法七十五參までの變動あり即ちアレー、アンデユズ、ユゼーに於ては五法五十參、センテツホリートに於ては五法六十より六十五參、ニームに於ては五法五十參より六十五參、ガンヂユ、センダンブロアに於ては五法七十五參、ルヴ井ガンに於ては五法五十五より六十五參なり

プロヴァンス　に於て五法より五法十五參にて開きしが六月一日にはセン、レミーに於ては五法卅參より卅五參となるグラブソンに於ては五法廿參より廿五參、ツロンに於ては五法廿より廿五參なり

本年度は繭質の優れたると共に收穫も亦勝れたると唱せり

伊國　養蠶は佛國より後れたりと雖桑葉の良質にして且つ饒かなると天氣の晴好なりしが爲め蠶頓の進捗をなせり、トスカーヌ平原地方は既に新繭出でたるが來週に至ざれば澤山の取引なかるべし、メッシーヌに於ては五法廿五參を以て初手合をなせり

西班牙　收繭は前年度より少しく增したり

ブルーツス　平原地方は二眠より三眠中にして蠶兒は健良なり

ベイルース　養蠶は平地も山手の如く漸く給桑に着手したり地中海東方諸國に於ては蠶繭價格の高進を欲する所より今は桑葉及び飼育上にも其關係を及ぼすに至れり（此地方は最も晩場にして未だ播立をも終らざる所なり）

上海　純白蠶絲は千八百九十一年は五萬二千俵九十二年は六萬二千俵なりしが本年は六萬五千俵の輸出あるべし廣東に於ける第二の收繭は良好なりと云ふ

日本　未だ確報を傳へ來らず

統計

◎世界各國繭生絲產出高概算

大日本蠶絲會
贊成會員　今西直次郎譯

國名	二十四年 繭	二十四年 生絲	二十五年 繭	二十五年 生絲
佛蘭西	六、八八三、五八七瓩	五六六、〇〇〇瓩	七、六八〇、〇〇〇瓩	六一五、〇〇〇瓩
伊太利	三七、九二二、五六二	三、二一〇、〇〇〇	三四、六四一、四九一	二、九三七、〇〇〇
西班牙	一、〇二六、〇〇〇	九〇、〇〇〇	八六五、〇〇〇	七七、〇〇〇
澳國匈牙利（チロル）	一、五五〇、〇〇〇	—	一、三五〇、〇〇〇	—
仝（フリール）	六二五、〇〇〇	—	四〇六、〇〇〇	—
仝（イストリヤ及ダルマシー）	一一七、〇〇〇	—	九〇、〇〇〇	—
仝（ホンヂリヤ）（クロシヤ）	一、一〇八、〇〇〇	二八一、〇〇〇	九七〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇
東歐（アルバニヤ及アナトリヤ）	一、八七五、〇〇〇	一三五、〇〇〇	一、五二九、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
仝（サロニツク ウサロ アンドリノープル）	一、九〇〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	二、一一〇、五〇〇、〇〇〇	二二五、〇〇〇
仝（シリー）	三、四九二、〇〇〇	二九〇、〇〇〇	三、三二五、〇〇〇	二七五、〇〇〇
希臘	二〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇
コーカズ	二、六〇〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	二、一一五、〇〇〇	六五、〇〇〇
支那（上海輸出）	—	—	—	三、二三〇、〇〇〇
仝（廣東輸出）	—	—	—	一、二三〇、〇〇〇
日本（橫濱輸出）	—	二、九九四、〇〇〇	—	二七七、〇〇〇
印度（カルキユタ輸出）	—	二二九、〇〇〇	—	二五〇、〇〇〇
合計	五九、二九九、一四九	一二、一五九、〇〇〇	五六、四一一、四九一	二二、〇一〇、〇〇〇

◎六月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計

種目	數量	元價	收稅
生絲	八一、五一七瓩	七一四、四〇一、八〇〇円	一九、六〇六、八三一円
玉絲	三三八	一、一九二、八〇〇	二一、四八八
斗絲	三、四八六	五、二九八、〇〇〇	八四、〇八四
屑絲	一一、四九八	一二、九四六、三三〇	八三、一八六
繭	〇	〇	〇
屑繭	〇	〇	〇
眞綿	三	七、〇〇〇	一、二三六
屑眞綿	三九、四一三	四、五四三、四八〇	二二七、一七四
計		七三八、八三九、四一〇	二〇、〇一二、九九九

◎六月中絹布類輸出數量及元價統計

種目	數量	價元
羽二重	一三、一四六	二三八、四九〇、一〇〇
他ノ諸絹類	六、〇九六	五九、七四三、八三〇
絹綿布類	八六一	三、四六五、六〇〇
絹布手巾	二二六、五八二	五三二、九一六、九八〇
絹製品類	〇	四一、八七二、五四〇
計		

◎七月中横濱生絲手合高同最高價格及外國爲替相場表

日	種目	手合高	手合最高價格		外國爲替相場	
			製絲場名	價格	倫敦巻替	里昂巻替
一	日	五十五個	信州富岡製糸場(細)	九百五十弗	二志四片二分ノ一	二法九十九參五十七弗五十仙
二	休					
三	日	二十個	甲州一心社製糸場(細)	九百弗	二志五片四分ノ一	三法九參
四	日	四十六個半	勢州度會製糸場(細)	九百五十弗	二志五片八分ノ七	三法十四參
五	日	十四個	美濃岡田社製糸場(細)	九百三十弗	二志六片八分ノ三	三法十八參
六	日	二十五個	尾州小澤製糸場(細)	九百十弗	二志六片八分ノ五	三法二十一參
七	日	四十個	勢州西田製糸場(細)	九百弗	二志六片	三法十五參
八	日	百五個	江州彦根製絲場製糸場(細)	九百三十弗		
九	日	休				
十	日	九十五個	甲州草薙社製糸場(細)	九百十弗	二志五片二分ノ一	三法九參
十一	日	百六十四個	信州矢島社之名製糸場(細)	九百三十弗	二志五片四分ノ一	三法六參
十二	日	二百二十八個	美濃野呂製糸場(細)	九百五十弗	二志五片八分ノ五	三法十參
十三	日	二百十一個	美濃金華社製糸場(細)	九百五十弗	仝	仝
十四	日	七十六個	高崎旭社製糸場(細)	九百五十弗	仝	仝
十五	日	九十三個	信州矢島社製糸場(細)	九百三十弗	二志五片四分ノ三	三法十一參
十六	日	休				
十七	日	五十七個半	作州浮田製糸場(細)	九百五十弗	二志六片八分ノ一	三法十三參
十八	日	百六十一個半	若州小濱製糸場(細)	九百五十五弗	二志六片八分ノ二	仝
十九	日	六十一個	美濃金華社製糸場(金機用)(細)	九百弗	二志六片四分ノ一	三法十五參
二十	日	百七十五個半	美濃大垣製糸場(細)	九百五十弗	二志五片八分ノ五	三法十三參
廿一	日	三百六十二個半	近江製糸會社製糸場(細)	九百四十弗	二志五片八分ノ七	仝
廿二	日	百三十二個	備中吉備製糸場(細)	九百四十弗	二志五片二分ノ一	三法十參
廿三	日	休				
廿四	日	二百五十二個半	豫州大瀧製糸所製糸場(細)	九百六十弗	仝	仝
廿五	日	二百四十七個	信州龍上社製糸場(細)	八百九十弗	仝	仝
廿六	日	百七十二個	信州矢島社製糸場(細)	九百弗	仝	仝
廿七	日	百十三個	尾州豊學社製糸場(細)	八百六十五弗	仝	仝
廿八	日	九十八個	甲州草薙社製糸場(細)	八百六十五弗	仝	仝

甘九日八十五個	信州伊奈社蠶檢(細)	八百八十弗	二志五片二分ノ一	三法十參	六十弗
三十日休	信州間明社蠶檢(細)		仝	仝	仝
卅一日百六十一個		八百六十弗			

〔備考〕海外爲替相場は去る六月下旬の頃よりして著るく低落を來せるにも拘はらず生絲は寧ろ不振の商況を呈し取引は至りて沈靜にして既に手合濟の分も往々破談となりしもの多し是れ米佛共に市況の靜肅不活潑にして動もすれば價格低下の傾向を示すに原由するならむ

●問答

◎蠶種桑樹其他の件に關する質問

愛媛縣　大日本蠶絲會員　渡邊幸一郎

(一)土耳其種の產卵は護謨質に乏しきが故に原紙に附着せず爲に揩下の際少しく不便を感ずるなき能はず若し「アラビヤゴム」を以て附着せしめても無害なるものにや

(二)新に創業する養蠶家が最も多く栽植するに益ある桑の良種を問ふ

(三)蠶の種類中本年迄に最も良種なりと認定されたるものは何程なりや

(四)蠶兒雌雄の區別如何

(五)純粹春蠶種にして其年の夏時再び發生せしむる良法ありや

(六)鼠害豫防の最良法を問ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　高橋信貞

(一)「アラビヤゴム」を用ひて附着せしむるも其位置異蛾の產卵せしものと同一なるときは敢て害なかるべし、然れども特に斯る手數を施すの必要あることを認めざるなり

(二)桑樹は地質と氣候の適否及び栽培の如何に因りて繁茂するものなれば甲の地に良好なる結果を見るも乙の地に否らざるものあり例へば上州の翻れ桑信州の鼠返し與州の赤木甲州の高橋江州の細江等何れも其國に適して能く繁殖するが如し故に其土地に適すべき早、中、晩の三種をば撰ぶを良とす又山林原野を問はず地方の產桑にして其葉及び樹形の佳良なるものを認めなば接穗して以て試むべし稱かすれば地方適當の良種を發見することあるべし

(三)良種とは絲の佳良にして養ひ易きものを指すならむ果して然りとせば小石丸、又昔等は其撰に當るべし

(四)蠶兒雌雄の區別に就きては種々の說あれども同種中躰の肥滿して量目重きものは雌にして其輕きものは雄なりといへるもの眞に近きが如し

(五)純粹の春蠶種も發育の早くして上簇結繭赤之に伴ふべきもののみを撰びて產卵せしむるときは夏季に發生するものを見るべし邦俗之を再出といふ然れども既に此時には所謂退化したるものにして春蠶の純粹種とはいひ難かるべし又他に人工孵化法あれども尙ほ試驗中に屬するを以て茲には之を陳べず

(六)鼠害豫防の最良法は良猫を飼ふにあり他に名法あるを知らず

●外報

◎里昂蠶絲改所景況

昨二十五年中佛國里昂蠶絲改所の景況に附き同地駐在帝國領事代理副領事旅崎寛良氏より去る七月中其筋へ左の報告ありたり

當地蠶絲商況の盛衰浮沈は蠶絲改所に於ける運動の急激緩漫に因りて之を察知することを得べし依て昨年中同改所の狀況を記し同年蠶絲商況の全體を示し以て當業者の參觀に供すべし

昨年當地蠶絲改所の檢査高は九萬三百九十三梱にして此量目六百二萬二千四百二基なり其内譯を擧ぐれば左の如し

經絲	一三、四九一梱	此量目	一、一四二、七三六基	雜蠶絲	二、三四九梱	此量目	三七、八六二基
緯絲	一一、五一九　同		八四六、二六二	卷絲	九七七　同		八、五六六
生絲	六二、〇五七　同		三、九八六、九七六	合計	九〇、三九三　同		六、〇二二、四〇二

右の檢査高は今を距る十七年前即ち千八百七十六年來未曾有の最多額なりと云ふ乃ち千八百七十六年の檢査高を擧ぐるに八萬五千百七十二梱此量目五百八十二萬八百七十二基なりき其内譯を掲ぐれば左の如し

經絲	一九、五六六梱	此量目	一、七四三、九九九基	雜蠶絲	二、三七六梱	此量目	一三六、三七七基
緯絲	一五、六五九　同		一、二一五、七七五	卷絲	一、二九四　同		九、二八七
生絲	四六、二七四　同		二、七一五、四三四	合計	八五、一七二　同		五、八二〇、八七二

前掲二表を對照するに兩年度檢査高の内譯相同じからざるも大體取引の頻繁なる點に至りては粗〻同一なるを見るべし而して又千八百七十六年は昨年に比し撚絲の量一層多きを示せり即ち昨年は經緯絲合計百九十八萬八千九百九十八基にして千八百七十六年は二百九十五萬九千七百七十四基なりしを以て凡そ百萬基の差異あり然るに生絲は之に反し千八百七十六年は昨年よりも少量なりしを見るべし

右の如く兩年間撚絲及生絲の量數に增減ある理由を考査するに千八百七十六年の頃は段物染生絲織の業漸く開始の際なりしと當時投機的の取引盛に行れ專ら歐洲撚絲を占有せしとありしに依れり將た當時は亞細亞産生絲の取引未だ盛ならざりしがため蠶絲改所に於ける絲量秤定の業務は昨年に比すれば稍〻緩漫の狀ありき則り兩年間の檢査高を驗濕及秤定量に因りて區分すれば左の如し

	驗濕量	秤定俵量	合計
千八百七十六年	三、九九一、〇六一基	一、八二九、八一一基	五、八二〇、八七二基
千八百九十二年	三、九九九、四三一	二、〇二二、九七一	六、〇二二、四〇二

蠶絲改所に於ける生絲撚絲の檢査總額に對し各國産絲の比例割合を調査するに左表に示す如く大に變動ありしを見るべし

國名	千八百七十六年	百分比例	千八百九十二年	百分比例
日本	八一六、四四九	一四・三九	一、三〇三、九三七	二一・八二
佛蘭西	一、一二六、二五五	一九・八一	七三七、六八五	一二・三四
西班牙	一一一、〇三一	一・九六	三四、一七八	〇・五七
ピエモンテ	二七一、四六三	四・七九	一五三、三八九	二・五七
伊太利	九一〇、〇〇九	一六・〇四	六八九、九五四	一一・五五
プルース	一七六、九二八	三・一二	三三七、九二四	五・六五
西里亞	一一七、八二六	二・〇八	四〇七、九四七	六・八三
希臘ウオロ、サロニツク	三五、九〇七	〇・六三	——	——
ペンゴール	二二二、二四二	三・九二	六六、〇一四	一・一〇
支那	一、四九三、三二八	二六・三二	九八二、九八二	一六・四五
廣東	三九三、七七〇	六・九四	八九七、九三四	一五・〇三
野蠶絲	——	——	三六四、〇三〇	六・〇九
合計	五、六七五、二〇八	一〇〇	五、九七五、九七四	一〇〇

但し千八百七十六年已降は希臘ウオロ、サロニツクの產絲は西里亞の部に編入し又同年已前は野蠶絲をペンゴール、支那及本邦產絲と混同せるに依り前表の如し

前表を見るに本邦產絲は千八百七十六年は檢査高百分の一四・三九にして四等に位するも昨年は進て百分の二一・八二に進し一等の地位を占めたり

兩年間取引の狀勢を考査するに大に異なる所あり乃ち千八百七十六年に於ては五月より九月に至る五箇月間は取引益〻頻繁なりしも十月より十二月に至る三箇月間は頗に弛緩の狀を呈せり則ち左表の如し

五月	五三二、七六三	九月	六九四、四三七	
六月	五〇四、〇九〇	十月	四四六、五八九	
七月	七七四、二〇三	十一月	二六七、一七二	
八月	六六三、〇七九	十二月	三二五、四五七	

然るに千八百九十二年に於ては右の如く激動なく殊に下半季間は左表に示す如く取引順當なりしを見るべし

一月	四一五、七五三	七月	五一一、一七二	
二月	三九三、二八七	八月	五五三、五一五	一、六六五、一五五
三月	四四一、九〇二	九月	六〇〇、四六八	
四月	四三二、四三八	十月	五九八、〇五四	
五月	五六八、八〇三	十一月	五一六、二九一	一、六三七、七三二
六月	四六七、三三二	十二月	五二三、三八七	
合計			六、〇二二、四〇二	

◎本邦の粗製生絲及羽二重の件

米國に於ける本邦の粗製生絲及羽二重輸入の件に附き倫敦駐在帝國總領事代理大越成德氏より本年五月二十七日附を以て其筋へ左の報告ありたり

北米合衆國へ輸出せる我蠶絲粗製改良の件に關しては曾て其原因と認むべき點を指示し其改良の方法に附き卑見を開陳せしことあり然るに又此頃當英國マンセスタル府刊行織物雜誌中に「ドライ、グーヂ、エコノミスト」(Dry goods Economists)と稱する米國雜誌より本問題に關する一文章を摘錄せり而して其論點大に我當業者の注意を惹くに足るものありと信ずるを以て左に其要點を譯出す蓋し昨年中の事なりし右米國雜誌の在本邦通信員は書を該雜誌に寄せ我製絲家、撚絲家及製絹家の皆十分に意を其業に注かざるため其製品何も品位劣惡不規則にして其結果遂に我生絲業の運命を危險ならしむべしと痛論せることあり而して該雜誌は今更に其論を左の如く敷衍せり

玆に又日本蠶絲業に一危害ありて其結果は米國製絲家に取り禁止輸入稅の賦課よりも尙ほ功能あり即ち日本製絲家及撚絲家が蠶繭の撰擇に注意せずして絲質を雜駁ならしむること是なり而して此危害の尋常ならざることは日本農商務大臣も之を認め昨年養蠶學校卒業式の際に爲したる演說中に生徒を警めて曰く學校にて修得したる學理學識も之を實地養蠶製絲業上に良く應用することを努めずんは生徒自身のみならず國のためにも裨益することと鮮なし云々と而して此弊は全く製絲より製絹までの間何にも存在して其惡果は終に絹織物即ち羽二重に現はるゝなり

抑〻日本の養蠶地方は其區域廣濶なるため各地々理上の位置を異にし氣候も亦殊なり隨て種々異なる所の事情に依りて養蠶せり例へは北方の氣候は乾燥なるに南方は潮濕なり山地に於ては冬寒春暖の激變甚しきため飼養時期較〻短く且つ多忙なるに海岸地方に於ては蠶卵孵化の業も各人の氣儘に任す程なり

他の產絹國に於ける如く日本の農夫も其妻女の飼養したる蠶繭より絲を紡ぐこと稱にして繭を其儘繭買人と稱する者に賣渡するを常とす此繭買人は此の如く處々を巡りて少量の繭を買集め其種類の如何を顧みず之を混合して其關係製絲家へ送附せるなり是を以て繭の此製綿家の手に入りたるときは諸產異種の繭混合すること明にして實際吾等は同じ鍋の內に大小、色合種々異なる繭の相混ぜるを見又女工の絲を取るにも陸中產の賣繭も信州產の白繭も毫も異なることなき樣無心に紡絲せるを目擊せり

數年前歐米及日本に長く經驗を積みたる人にして日本生絲の品位に關し精密なる研究を爲したる者あり其人の說は全く平素世人の廣く抱持する說を確めたるものなり其說に曰く若し精良の絹物を織出さんとするには之に用ふる生絲は各種の蠶繭を混合すべからざるのみならず同等の品位と雖も產地異なる繭は混紡すべからず例へは陸中北方の低地に產する一番繭と信州高地の寒國に產する同番繭と混合して絲を取り而して撚絲家に終始一律なる上等精品を製出すべしと期望するは到底望むべからざれば故に今同質同量と稱する百段の羽二重を檢査せば人必ず其品位其他の一律ならざるに失望せざる者なかるべし實に日本蠶繭は他國產と其品位に於ては毫も劣る所なしとは世人の深く許す所なり然るに日本人は此大業即ち日本輸出品の三分の一を占むる生絲業に十

分の注意を加へずして今日尚ほ此苦情あらしむるは同國に取り實に痛惜すべき事なりとす然れども米國に取りては前述の如く日本の損失は却て米國の利益と爲るべし

何人と雖ども目下シカゴ市世界博覽會に陳列しある同伸會社の出品を一覽せば手素米國織絹家の唱ふる苦情即ち日本絲の一律ならざることと及其弊源は全く製絲の不注意にありて之を除くこと又容易なるを首肯せざるものあらざるべし右同伸會社の出品は凡そ百三十種にして同社の說に此類の絲が即ち米國の注文を受けて輸入するものなりと唱へり此れ全く至當の言にあらず如何となれば同出品には十二分の注意を品位の精選、製紡の技術に加へあること瞭然たればなり若し此注意を全體に實施せしめば實に檢査役も磨すべく米國絹業者も其營業容易なるべし加之其結果は日本織物業者に取り不可量の利益あり即ち日本に於て現在輸出に適せざる程の劣等絲を以て羽二重を織らず十分精選の絲を使用せば職工の賃金廉なるに依り大に安價に上等織物を製出することを得歐米絹物輸入商も亦喜て之を輸入し其勢日本よりは織物の輸出非常に增し生絲の輸出消滅するに至るべく好し消滅するまでに至らざるも其價を騰貴せしむること疑を容れざるなり

右米國人の意見に據れば畢竟日本生絲の粗製品多きは製絲所に於て種々異樣の繭を混同するに原因し亦羽二重品に不揃物多きは輸出に不適當なる生絲を以て之を織出すがためにして米國人は此缺點を指示して十五年以來本邦當業者に注意せりと雖ども更に改良を加へざるが故に到底將來日本の損に歸すべしと言ふにあり然れども第二點の織物へ劣等蠶絲を使用するが如きは事實なるべきも第一點なる養蠶絲の缺點の如きは十數年來著々歩を進め改良を加へ米國人の喋々するが如き惡弊なきこと〻自信せり

此頃伊太利人某本邦より來著し面會の際横濱生絲取引の狀況を聞きたるに本人は該港に於て生絲檢査役を本業とし各商館の依頼を受け輸出品の鑑定を爲せしに本年の如く該品輸出の盛況を呈したるに當りては歐洲向品は最も注意して揃ひたる品を輸送せしと雖も米國向は商館中多少競爭して多量を送らんことにのみ汲々せるを以て其檢査の如きも頗る不充分なりしに依り不揃品を輸出せしは怪しむに足らず云々若し本人の說をして正確なりとせば是れ全く當館に於て指示したる原因にして米國向蠶絲輸出に從事する外國商館の不注意より生ずる弊害と認めざるを得ず然るに紐育の當業者殊に蠶絲協會の書記長某の如きは常に我當業者に向ひて改良の忠告を爲し不揃品の多きは我製絲家の責にあるが如く論ずると雖も在本邦米國商社の不注意に原因することに氣附かざるは頗る怪しむべし然りと雖も米國市場は我蠶絲に取りては最も重要の場所柄なるを以て假令外商の不注意より生ずるにもせよ我蠶絲の不評判を來し隨て其需要を減ずるが如き惡果を生ずるも計り難きが故に我當業者に於ても宜しく怠らざる樣希望すると同時に紐育の市場に上る我不揃品の割合併て之を輸出したる館名等一層正確なる調査を遂げたきものなりと思はる

◎伊國絹物商況及養蠶景況

伊國に於ける絹物の商況及養蠶の景況に附き同地駐劄中島特命全權公使より本年五月二十九日附を以て其筋へ左の報告ありたり

昨年七月以降絹絲の價額は生絲、製絲とも一基に附き平均凡そ二十「リラ」方の騰貴を見滿も昨年に

比し凡そ一「リラ」平の昂價にて四月下旬に至り益々昇騰し實に近年未曾有の高直なりしが本月に入り漸も少しく下落し殊に生絲の如きは四月末よりは十「リラ」方低落せり要するに前日の騰貴は外國に於ける需要のためにあらずして寧ろ內地に行れし投機に因りしものなり兎に角絹物の價格需要と權衡を保つに至りしは賀すべきことにて然も尙ほ昨年の本期に比し當に二十「リラ」方好價なるは畢竟製絹家の需要多きに基き其需要多きは近來絹物の流行復活せしに由る而して現今伊國に於ける品物頗る拂底なるを以て其需要は新穫期に近づくも決して減ずることなかるべしと云ふ

例年に反し本年は既に三月上旬に於て當夏產すべき繭の賣買約定を始めし者頗る多く其引渡は六月に於てすべき筈なり昨年の如きは賣買約定重に五月六月に於てし決して其前に行れざりし

今伊國農商務省の報ずる所に依り本年養蠶の景況を記せば本月十日頃何地に於ても概ね蠶種孵化し或る部分にては既に初眠若くは第二眠に達せしものあり爾來引續き順當に發育し昨今(二十八日頃)三眠に就きしものあり(Giallume Calcino)等の病に罹りし蠶兒なきにあらざれども其害の及ぶ所極て狹隘にして一般に好況なりと云へり

本年孵化せし蠶種の量昨年より多く場處に由りては五分乃至一割方の增量なりと云ふ其種類は白黃雜種及內地產黃色のもの大部を占め綠雜種及日本產の再生種は漸々減少の模樣なり桑の出來も概ね宜く中には霜のため多少損害を受けたる地方ありて從て一時價額大に騰貴せしも被害の區域至て少く且つ降雨のため成育益々能く供給充分なりしを以て本月下旬に至り價格下落せり本年は暑氣早きため一般繭の收穫は例年より凡そ一週間程早かるべし就ては六月八日頃或は其前に繭市を開くに至るべし

過般其筋より千八百九十二年に於ける伊國製繭高に關する報告を發せり該報告に據れば同年間に產せし繭は各種合て三千四百六十四萬千四百九十一基にして蠶種一「オンス」に對する繭の產出高平均三十三基一五なり其內譯左の如し

地方	孵化用蠶種量	繭產額
ピエモンテ	二〇萬七千五百「オンス」	三億七〇四百五萬
ロムバルヂア		二三億七一三萬
ヴエネト		六億四〇〇〇萬
リグリア		七三百七十九萬
エミリア		二億九六六七〇〇萬
アルク及ウムブリア	三萬一百八十四基	二〇〇億三四一萬
トスカナ	一億八九〇一七三萬	一億八九〇一七三萬

養蠶者の數は五十三萬千八百六十九にして孵化用蠶種養蠶者の數及繭の產額は何も前年(千八百九十一年)より減少せり是れ畢竟各地降雹のため桑に大害を受け從て其價額頓に騰昂せしに因るものなりと云ふ

地方	孵化用蠶種量	繭產額
羅馬	三萬八千八百「オンス」	一億〇三四三萬
ナポリ		二億二百萬
ターナ		一億九六六八二四九
地中海側		五億五四四百
シチリア		一〇億六六
サルデニア		三億
總計	一〇百六〇九二	三百六四一百九一

雜報

◎内商外人の貸金を仰ぐ

横濱に於ける賣込問屋が生絲屑物等を抵當として外國商館より金圓を借入るゝものあるは今に始めぬことなれども兩三年以來益々盛にして生絲取引の劇しき季節に向へば商館中には本業の取引よりも寧ろ抵當貸を專務とするが如きものありとのことなり賣込問屋は生絲といふ十分なる抵當品を有しながら正金銀行及び各銀行のあるにも關せず此を捨てゝ彼に就くは其故如何利子が低廉なるかといへば決して然らず、時に或は高低あれども先づ百圓に付四錢内外の日歩にして此外に手數料として一個に付二十五錢内外を番頭に貪らるゝを常とすされど商館にては原價の九掛内外を貸出せども銀行の貸付けは原價の七掛位に止るが故不利益と知りつゝも勢ひ彼に就かざるを得ず是れ問屋が荷主に貸付くるは普通八掛以上なるを以て中以下の問屋にありては荷爲替の受拂に追はるればなり内地銀行者が此關係を默々看過するは畢竟是迄抵當貸の上に失敗を取りたること多きに由るべけれどもさりとては又冷淡否活地なき次第にして歎息の外なしと在横濱南仲通四丁目杞憂生の報道に接しぬ

◎某師村民の惑を解く

前號の紙上には蠶業上一切僧侶の指揮を仰ぐと題して秋田縣由利郡笹根村の養蠶業が今日あるを致せるは全く佛徒の力なることを記せしが今又夫れと相類せる一對の話を得たれば之を掲載せんに斉は山口縣豐浦郡瀧部村の事にして同村は元來佛敎の盛なる土地にして門徒宗に歸依するもの多く爲めに養蠶業は結繭の後に蛹を殺すを以て殺生戒を犯すものなりとし曩に村内に養蠶傳習所を設置せるも就て業を受くるものあらざりしが先頃中のことゝか敎皇本佛大同團の某師が同村を巡歴して親しく說示する所ありしかば村民も多年の迷夢忽ち醒めて大に感奮し其翌日よりして傳習所に至り事業を參觀し且つ蠶兒の分與を請求するなど頗に蠶業の端緒を開くに至りたりと云ふ秋田山口東西其地を異にして其揆を同ふするものと謂ふべし

（横濱養蚕會員舊本重兵衛氏寄稿）

◎蠶絲貿易の豫見

本年の蠶絲相場に就て弱氣連の說く所を聞くに

曰く某直輸會社の私報に曰く歐洲養蠶は上作にして三割の增加なり而して繭は大に下落し現に佛國は八百〇一圓程にて百斤を製了するとを得べし然るときは夫れと比して絲質の粗劣なる我蠶絲は何程に低下すべきや想像も及ばず云々の說を是認す

曰く支那の養蠶も上作なり

曰く銀塊大に下落し米國に破產者多し

曰く本邦蠶絲の輸出も一割以上增加すべし

曰く内地用蠶絲は減少し貿易市場に增出すべし

又强氣連の唱ふる所に據れば

曰く米國銀塊買收案は臨時國會に於て愈々廢却せられ銀價は是より益々低落すべし

曰く前年の昨今に反し本年の爲替相場は大に下落し六十弗より六十一弗位の昇降なること（昨年は七十五弗なりし）

曰く歐米絹織物の流行に就き本年は三割方需用を增すべし

曰く歐米需用者は既に五月中其頃の相場を以て七、八、九月渡の先買をなしたり是は需用者が本年の絲況の盛好なる見込を抱き斯く買進をなしたるものにして其際伊太利器械上等絲一基七十五法を以て約束をなしたりと云ふ試みに之を以て我國に於て賣買し能ふ所の絲價を推算するときは七十五法より關稅、運送、口錢其他の雜費として其壹割三分（九法七十五參）を扣除し六十五法廿五參を以て我が賣買直段となすことを得べし左すれば百斤（六十基）に對し三千九百十五法にして其爲替相場一圓は佛貨三法十參とせば即ち千二百六十圓の價格あるものゝ如し

以上兩者の說を參酌して愚見を述ぶるに

一平年即ち九万俵内外の出市あるときは其中三万俵は市場に堆積するは常勢なるに本年は昨年度の盛況に勵まされて製絲高を增したれば十一萬俵程の出荷あるべく加之本年器械絲に在ては平均七百圓を以て百斤を製了し得るに是が相場は現時九百五十圓程なり然れば利潤の至大なる所より此際相競ふて益々急進增製をなすに於ては三萬乃至五萬俵の堆積は免かれざる所にして夫れと同時に窮屈の餘り歐米市況の如何を思はず遂に我より投賣の拙策を講ずるに至らん

一我蠶絲輸出の大部を占むる所の米國に於ては目下銀價下落に就て全般の景氣引立たず延て我が蠶絲も其影響を被ふると少なからず尤も早晩回復の見込は確かなれども夫れまでの間我市場の盛潮勝なるとを豫め覺悟せざる可らず

一歐洲の養蠶其上作なる時は敢て他國の生絲供給を急がざれば本年は昨年に反し決して一時に饒多の買入をなさゞるべし

一流行の勢力は至大にして奪ふ可らざるものなり例へば不流行の際は作も不足し價も騰ふして尙ほ賣行悪しく又一朝流行に際せば豐作にして且つ價貴きも賣途に窘束するとなきが如し

一本年は實に當業者が技倆の巧拙を試るに圖强の時にして或は六百五十圓程に投放して愀々長息するものあり或は千圓以上に賣了して得々喜悅するものあるべく即ち機の緩急に由て三百五十圓程の激昇暴降あるべし

之を綜言するに歐洲の蠶作は昨年に比し多少豐饒なりと雖も絹物流行の點に於て新に一大需用を益したれば毫も顧慮する所なきは勿論前途却て强盛の目算あるべきは歐洲（伊太利）に於ける豫約絲價に徵して明かなり然るに歐米需用者は其豐作を恃み且つ新絲盛出の頃に在ては未だ東洋市場に供給の急を告けざるなり之に反して我市場の如きは一に海外を以て顧客として之を待つものなれば新絲を繰了るや忽ち之を市場に出すことのみ力むるものから其堆積すると益々甚くして窘窮愈々切なり是に於てか勢ひ損益を問ふの暇なく遂に絲價をして墜落崩壞せしむるの悲境に陷るは商畧に迂疎なる本邦當業者の通弊にして本年の如きは就中是に顧戒する所なかるべけんや要するに決して一時の速進を計ることなく緩急の機を窺くもせざるに於ては本年の如き大に好望の歲と稱して可なるものなり

◎旱害製絲業に及ぶ

七八月の頃は氣候最も乾燥にして兎角照續勝のものなるが本年は其中にも甚しくして愛媛縣下の如きは瀧渡上の爭論より甲村と乙村との間に竹槍蓆旗の修羅場を演出するは殆ど毎年の事なるに今年は大小の河川盡く乾涸して涓滴の水だにあらざるため其爭すらなく又奈良縣下の農民は人爲降雨法を施行されんことを請願したるとか和歌山縣下伊都郡にては各村協同し去る四日より郡内百四十箇所の山嶺に於て學理に基き大籌を焚きたるに其効忽ち顯れ翌五日には降雨ありしとか埼玉縣下所澤は元來水の少き土地にて七百餘の戸數二千二三百の人口に對し飲料用の井戸は僅に四箇所に止まり從來水汲人の持來るを買取る例なるに頃日の旱にて今は水をも殆ど汲盡し井戸の深さ三十尋内外に達し流石の水汲にも汲切れず隨て水の價も非常に騰りたれば一人に付水五升と制限を立てたる家もありといふ其他水切れに關しては種々の珍聞多き中に山梨縣下甲府市の各製絲家は諸川の涸渇したるために一時業を停止したりと所謂大旱の雲霓を望むとは今日の有樣にして油然の雲沛然の雨は一刻も早く全土を霑ほして斯民の困厄を救はんこと渴望の至りに勝へざるなり

◎新井氏辭職の理由

同仲會社取締役の重任を帶びて久しく米國紐育の支店詰たりし新井領一郎氏が先般歸國して辭職したる理由なりといふを聞くに氏に對する歩合配當の事に就き株主甘一名より建議する所ありしかは該社は之を採用して氏に歸國を命じたり然るに氏は規約の改正を要すれば一應己れに謀る所あるべき筈なるに其事なきは處置公明を欠き己れの信用上にも拘はるこゝとて決然辭職したるものなりと云ふ

◎蠶絲業上の奬勵手段

青森縣弘前市相良町武田蠶業所に於ては多年製絲業に從事し年々地方の產出に係る繭數百石を購入して生絲を製し之を横濱に送りて海外に輸出することを勉めしも奈何せん品位の不同なるよりして其價を得る能はず是れ畢竟蠶の種類夥多なるに原因すればなりとて數年來專ら蠶種の撰擇に注意し尙ほ且つ本年よりは一種の奬勵法を設けて之を實施せり其法は種類の何たるを問はず一種類にて上繭一石以上一手製の繭を持參するものには買入代金の外に一石に對して金一圓を與へ以上一斗毎に金十錢を增すにあり又同所にては一の注意書を發行して其方法に由り製造したる生絲には五百目に對して是にも相當の奬勵金を與ふるとのことなり

◎養法の改良と販路の擴張

栃木縣下都賀郡絹村には絹盛社と名くるものありて去る明治二十二年の頃より養蠶傳習所を設け教師には曾て農務局西ヶ原の蠶業試驗場に入りて實蹟の功を積みたる菊池貞三氏を聘して生徒を養成し已に若干の卒業者を出せし由なるが本年も亦生徒と見習生と合せて五六十名の額に上り蠶業は年一年より發達の域に向へりと云ふ又同社の社長大橋某は村長にして身は劇職にあるも卒先して生絲の販路を擴張せんことを企て有志者と相謀りて實力ある各製絲家に協議し村内產出の生絲は一手販賣を爲すことに取極めたる由

◎高等養蠶傳習所の通信

京都府丹波國綾部町に設立する同府蠶絲業組合高等養蠶傳習所より客月（七月）付を以て左の通信ありたり

一本所傳習室春蠶は去る六月八日を以て悉皆上蔟し全十四日に於て清涼育も亦結繭を始めたり而して十二日より繭掻取に從事せしが其收穫は左の如し

上繭　九石八斗九升四合五勺　全切繭　一石〇一升三合　屑繭　一斗七升三合五勺

而して上繭中より更に良繭を撰出し以て製種用に供し他は全月十七日を以て之を公賣に付したるに其主なるものゝ價格は左の如くなりし

又昔　一石に付四十圓三十錢　全切繭　全十一圓十錢

屑繭　一升に付三錢一厘

一本所の製種用繭は蛆の歩合極めて僅少なるを以て別に蛆撰をなさゝりし

一早きもの即ち夏蠶は六月十九日發蛾し遲きものは二十九日を以て發蛾し畢れり而して蠶種製造額は左の如し

框製	一萬五千蛾	普通製	卵量一貫百目

一初度の夏蠶收繭は一斗七升五合五勺にして内九升の種繭を撰出し卵量五十三匁の蠶種を得たり

一春夏蠶種共に要望者非常に多く誂れも其請求額の通り頒布する能はざるなり

一蓆圍圓形蠶室春蠶の成蹟は蛾量六匁七分に對する二石二斗の收繭あり繭の品位は毫も普通蠶室に異ることなし目下は全室に於て夏蠶を飼育せるに已に二眠を終り其發育亦頗る良好なり

◎蠶種縱覽所の新設

群馬縣上州前橋市に於ける帝國蠶種豫約會社にては蠶種見本縱覽所なるものを設立して同縣下は勿論埼玉、長野、福島其他各地方の專業蠶種家の製造に成る改良蠶絲の見本を展列せしめて廣く養蠶家の縱覽に供し一目の下に彼此相比較し以て其品位の如何を知らしめ且つ其見本に就て要望者あるときは同會社は其媒介を爲し製造家をして坐ながら販賣することを得せしむるの方法にして來月(九月)より開所するとのことなるが供給者需用者共に定めて便益を受くることならむ

◎蠶業傳習生の修得證授與

客月(七月)三十一日午前第十時農商務省農務局西ヶ原假試驗場蠶事部に於て蠶業傳習生の修得證授與式を擧行し齋藤農商務次官農務局第二課長岡毅、農事試驗場長澤野淳及び蠶事部の係員諸氏臨席せられたり農商務次官の演說傳習生總代の答辭及び修得證を授與されし人名は左の如し

○齋藤農商務次官の演說

諸君は通常一般の修學生と異なり國家の經濟上社會の必要上見る所ありて遙々上京入場せられ一身以て我國のために盡力せられんとする諸君なれば喋々と說法する必要なし然れども今日の佳辰に際し祝辭を述ぶるは本官の職務上必要なりと信ず抑々蠶絲は本邦經濟上命脈の係る所の生產物なることは諸君の知らるゝ所又之が衰頹は國家の經濟上少からざる關係を有す故に農商務省に於ては此に試驗場を立て各地方に篤志者を求めて學理と實驗とを授け今日まで殆ど一千名の修得生を出せり今日諸君が此機に乘じ此大業のために盡さんとする門出の祝日なり偖今日此證書を得らるゝは教官の教授其宜しきを得たるに由ると雖も亦修得生諸君が刻苦勉勵の結果に外ならず本官は此盛事を賀すると同時に既往に微し將來に鑒みて悅の餘此に一言の贈を爲さんとす諸君は地方に歸り本業即ち蠶

絲改良の任に當り後進を開牖するの責あるの人々なるが故に空理空論を以て社會に立つ人と異なり實際上に立て模範と爲る者なり然る上は第一宜しく素行を愼み社會の信用を求めざるべからず素行修まらず信用なければ其今日修得したる學理と實業とは之を施すに所なからん、然らざれば諸君が平素刻苦勵精せられたる業務も水泡に屬すべし冀くは諸君此旨を躬し本場の希望と今日諸君が擔ふ所の幸榮を完くせられんことを

尙ほ本年は不幸にして腦氣患者多く諸君の學友福山佐一君は死去せらる深く痛悼に堪へざるなり又例年よりも落第生の數多かりしは是れ亦止むを得ざるなり

是等の人は明年に至りて本年爲さんとする所を盡されよ本日は農務局長止むを得ざる官用ありて此席に臨み諸君の門出を祝する能はざるは本官に於ても諸君と共に遺憾とする所なり

○傳習生總代の答辭

本日不肖等に蠶業修得の證を授與せらるゝに當り農商務次官閣下臨席且つ高論を忝くす何者の榮か之に加へん

抑々宇内列國現今の狀勢を觀察せば平和の戰爭瞬時も停止することなく皆特有の彈丸を放ちて勝を占めんとす我國此彈丸に供すべきもの多々ありと雖も蠶絲を凌駕するものあらざるなり然るに此物たる精巧なる以佛の强敵あり又其潤澤なる支那の大敵あり獨り我國をして彈丸の權を專にする能はざらしむ是れ今日此式を產出せるの因なり

顧れば過去六箇月間學科に實地に敎授の勞を取られたる敎員諸君に向ひ不肖等何を以てか酬ひん巧言令色以てせんか否是れ諸員の唾して取られざる所なるべし然らば夫れ何を以てしてか可なる哉夫不肖等の業今日に終りたるものにあらずして今日は唯其行くべきの道を習得したるのみ前途此學此術を以て蠶業社會の改良進歩を圖り根據を固め位置を高め地方の原動力と爲り我國の彈丸をして夫の敵國を凌駕し平和の戰爭勝利者の冠を著くるの日あらしむべきに能く盡し能く耐ふべき是れ不肖等が誓て敎授諸君に報酬せんと欲する所のものにして諸員亦渴望せらるゝ所ならんと信ず

嗚呼今日は夫れ如何なる日ぞ不肖等此大責任此大恩を荷ひ平和の戰爭場裡に出師の日なるを謹みて生徒總代として聊か所懷を陳して答に充つ

○修得證の授與人名

池田　朝衛（岡山）　大賀德太郎（福岡）　磯部　龍次（新潟）　加藤　虎吉（三重）
野本　傳三（京都）　絲井　平吉（京都）　猪野　範欣（高知）　東尾　來（大阪）
安達　健三郎（島根）　若月長太郎（山形）　白井　兼藏（愛知）　川村左馬次郎（山梨）
寳田義三郎（廣島）　保科忠三郎（山梨）　小出瀧三郎（千葉）　細江　省吾（岐阜）
高橋　佐吉（群馬）　氏家　英丸（山形）　岡田虎太郎（兵庫）　菅野忠左衛門（福島）
時澤　鶴吉（福井）　日比野新（岐阜）　倉光　儀兼（鳥取）　前原　熊平（岡山）
加藤養四郎（宮城）　柳町助太郎（福井）　菅家和藏治（福島）　加藤　明（滋賀）
新井　常吉（埼玉）　木村　次郎（宮城）　上田奈良松（奈良）　犬塚盛太郎（佐賀）
都丸　綱吉（群馬）　貞方嘉吉郎（長野）　橋本　外吉（福井）　岡崎昌平次（福岡）

桃　義久（島根）　安藤　精郎（岐阜）　林　良太郎（栃木）　友田　新八（鐵本）

因に曰く當初入場生は五十二名なりしが病氣其他の事故を以て半途退場者九名、死亡者一名試驗落第者二名にして修得證を得たる者は上記四十名なりしといふ

◎今井保一郎氏

大日本蠶絲會員にして西ヶ原の蠶業講修を經たる山梨縣人今井保一郎氏は曩に山形縣の招聘に應じて同縣東田川郡々立養蠶傳習所の教師となり黽勉事に從ひ懇篤業を授けしかば去る七月二十四日該郡長相良守典氏より左の謝狀を贈りたりといふ實に名譽の事なり

貴下本郡養蠶傳習所の招聘を容れ教師として來任せらるゝや其傳習所は氣候不順なる山間の邊隅にして構造亦粗疎なる家屋を蠶室に充つるは素と人民の希望を滿すにあり然り而して風雨冷濕に遭遇するも學理を應用し禍害を避け日夜拮据勉勵生徒をして能く飼育の方理を得せしめ頗る佳良の結果を呈せしを以て該地養蠶家を始め參觀するもの亦羨慕せざるはなし是れ將來本郡養蠶上偉大の功績を見るや信じて疑はざる所なり依て聊か謝意を表す

◎出張と派遣

大日本蠶絲會幹事長岡毅氏は鳥取縣米子町に於て開設する米外八種共進會審査長として仝技藝委員農學士本多岩次郎氏は蠶業講話のため共に農商務省より出張を命ぜられ岡氏は十二日に本多氏は六日に各出發せり又仝評議員にして山形縣飽海郡の養蠶傳習所教師たる吉池慶正氏は新潟縣の有志者五十嵐惇爾氏外若干名が本月九日より十二日まで北蒲原郡水原町に開設する蠶種繭生絲品評會の審査員として大日本蠶絲會より派遣することゝなり此程山形縣より直に出發せり

◎寄贈書

大日本蠶絲會賛成員高橋信貞氏より其講述に成れる生絲繭蠶種審査法一冊を寄贈されしが書中には其名の如く氏が多年經驗せる所の生絲繭蠶種三品の審査法を丁寧親切に載せたるものにして尤も有要の書なり又島根蠶業雜誌第七號京都府農會報告第十五號國家經濟會報告第二十六回は各其發行所より寄贈されたり

◎大日本蠶絲會員の加入

○通常會員

東京　牧野軍吉　新潟　中川簡治　堺玉　藤野善吉
仝　橋本德太郎　千葉　吉田謹爾　廣島　大村寛治

◎取消及び正誤

前號に掲載せし退會者人名中鳥取倉光儀兼兵庫廣田傳治の二氏は全く退會せしものに之なく何人か猥に署名代印して届出たる者なるべしと各本人より取消の請求ありたるに由り右二名の氏名は取消す又同號會員の加入人名中千葉加藤嘉一郎は加瀬嘉一郎の誤り

會務整理上差支不悲候間會費未納の諸君は此際速に大日本蠶絲會宛にて東京郵便電信局又は東京市日本橋區通郵便爲替取扱所へ爲替御振込相成度尤も郵便切手代用は一割增若又現金御拂込なれば通運會社より本會迄の持込賃金三錢を加へ御送金相成候樣致度此段廣告候也

廣告

醫化學用蠶業用 **顯微鏡** 獨逸國製造 六百倍より千八百倍

「油浸裝置」迄に至る醫學の進歩と蠶業の隆盛に赴くに從ひ弊店も勉て業務を擴張せざるへからず就中顯微鏡の如きは嚮に獨逸國製造元と特約を結び爾來精良品を直下け特別廉價に販賣仕候乞ふ御購求あらんことを定價表御入用の向は御報知次第郵送可仕候

東京市日本橋區本町三丁目十八番地
屋號 いわしや
總本店 **松本市左衛門**

京都府農會報告

第十五號已發

一部金六錢●六部金三拾三錢
（十二部金六拾錢要前金）
外に一部郵税貳錢ヅヽ

本誌は毎月一回五拾ページ以上の好雜誌なり其有益なるは實物を見て知れ

山城國愛宕郡大宮村
京都府農會

特許賣蠶業器械販賣

製鐵座繰器 壹臺 金一圓五十錢

本器は熟練女工の巧妙手術を器械に移したる者にして工女の熟否を問はず始めより精良細糸又太糸にても繰糸すること容易なり

揚返綾振器 金屬 一個 金二圓五十錢

日本生糸綾振の不整なるは今更申迄もなきとなり年來之が改良を謀られ綾振の原理を究めたる農商務省技術官高橋信貞長野縣太陽社々長鹽澤佐七の兩氏大に之が發明を促されしを以て余は其原理に就き遂に完全なる綾振器を發明するに至れり該器は絹の兩緣を高むる事なく六百七十五回目に元の糸道に復すると糸と固着するを以て糸と太陽社に該器百個を製置したるを以て同社生糸の絡交精良なるを横濱市場に於て非常の賞贊を受け隨て高價に賣れ行しは皆之が爲なり

蠶業器械販賣所 本店 東京市本郷弓町二丁目七番地 **御法川直三郎**
大阪市東區農人橋一丁目九番屋敷 大阪支店 **御法川**

右品の詳細書は業書にて申込次第進呈す